



第25号
平成29年10月12日
発行
熊本中央区高平
2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義紹

浄国寺企画 いま心にZEN 開催案内

浄国寺恒例企画
いま、心にZEN
平成二十九年十一月十一日(土)
午前五時 講演会
テーマ 「いす坐禅」
午後七時 「お寺でジャズ」
ジャズ 鈴木 良雄&Bass Talk

今年もやります

何度も書いてきた事です。高校生の頃「お寺」は、葬儀や法事等亡くなった方に何かして上げるところだろうか？と言った事にも疑問を感じていました。「それは、それとして大切な事

だろう。でも、俺がしたい事ではない」と言うのが結論でした。師匠である父親が、必死になって寺の再興に尽力をしていて、生々しい。しかし、「それは、俺は俺」と別の道に進もうとして

その後、禅ブームはありましたが、代「心の時」と言われる割



お釈迦様の足跡や説いた内容は、学ぶにつれて自分に沁み入ってきたように思えます。自分の中では色々な葛藤がありました。結局は、僧侶になり仏の教えを伝える立場になりました。

今、心に禅

だ私が二十代の頃、熊本曹洞宗青年会の僧侶が始めた企画の名前でした。電話相談で有名になった無着成恭老師、漫才師でありながら仏教の信仰が厚かった獅子てんや氏等の講演会、墨跡展、禅の写真展など壇信徒以外の一般の方へアピールする企画として開催してきました。

の後のバブルに浮かれ、空白の十年を経て、人々の心は、「心の問題」より「お金の問題」。「生活の問題」に追われるようになってきました。モラル・ハザードは進み、何を抛り所に生きるのか、いよいよ娑婆が娑婆(苦しみ)に耐える忍土)と化してきました。

グローバリズムとナショナリズム

今、これらの言葉で分類表現されているものは、決して本来の意味ではないと思っています。そして、看板こそ逆に見えるが、どちらもエゴイズムが基になっっているように見えます。グローバリズム「国際協調主義、世界の垣根を取り払って世界共通の価値観を持つ」と。ナショナリズム「民族至上主義、自分の国の利益と興隆が第一。まずは自分の国をしっかりとしよう」。

大雑把に言う以上、額面通りでも、それぞれに一長一短あるし、何を支

持するかは個人の問題でしょう。しかし、主義主張の体裁を借りて集団が形成される過程に於いて、思想主張ではなく、いつの間にか何が自分に得かの実利が重要な課題になってグルーピングが行われているようです。バブル以降顕著になりましたが、それぞれが「自分にとってどうすれば得になるか」の損得勘定を上手くできる人が「賢い人」しかも、最低限の努力と出力で最大限の利益を得る事が「賢い行い」とされるようになってきた気がします。しかし、他者の事を考えない行為に於いては、グローバリズムもナショナリズムも成立しません。自分の利だけを優先するうちに他者の不利を求める事になるからです。これを一言で言えばエゴイズムとなるでしょう。いづから、我々は、そんな淋しい、そしてさもない人間になったのでしょうか。教育の世界でも、こども達は、自ら勉強努力して上に行くより、相对比较の上に行くために「他の子どもの邪魔をして成績を下げる」行為を当然

のようにする子どもが増えてきたと聞きます。幼児教育の世界では、今、非認知スキルの重要性が説かれるようになりまし。習得度を数値や外形で計測できる技術より、乳幼児期に於いては、人の気持ちの理解できる事、頑張る時は我慢しても踏ん張る事、好奇心を持って遊びに臨める事などの「人としての基本的なスキルをまず習得させるべきだ」という考え方です。子どもの姿は親の日常を映す鏡です。まずは大人が襟を正したいところです。道元禅師の正法眼蔵を在家用に抜粋した経典である修証義第四章に好きな説があります。「愚人謂くは、利他を先とせば自らが利省かれぬべしと。然かには、非ざるなり。利行は一法なり。普く自他を利するなり」。

「目先の利益にとらわれるな。他者のために出来る事をきちんとやる事が自分の利益になるんですよ」。園児に言います。「お友達と一緒に遊んで、お友達が嬉しいと僕も嬉しいでしょ。だ



からお互いに嬉しくなるように仲良く遊ぼうね」幼稚園児は、喧嘩はしても、利害関係は計算しません。大人も子どもに学びたいものです

二昧(サマーデイ)

「さんまい」とは古代インド語サマーデイの音訳で通常「禅定」と訳されます。坐禅によって心静かな境地に至る事です。しかし、なかなか三昧の境地には行き着けません。我々の頭の中は、先読みと怒りと損得勘定で常にグチャグチャの状態です。その混沌の中で、自分が何に悩んでいるのかさえ分からなくなってしまう。自分の頭で作ってしまった縄で自縄自縛になり、頭だけでなく体調まで崩す事さえあります。自分を苦しめているのは自分で作った縄だと気づき、たまにはフルスロットル状態の脳みそのスイッチを止めてみませんか？まずは、静かな場所(お寺は、その為の場所でもあります)で、姿勢を調えて、骨盤を立てて背骨を伸ばし、



口からお腹いっぱい息を吸って、次にその息を全部吐ききります。今度は鼻から静かにゆっくりと息を吸い落ち着いて吐きます。無理なく自然な呼吸に努めて下さい。無心や無我になろうなんて考えてはいけません。その事自体が、既に計算尽くです。頭の中には、次から次に嫌になる位、考えや思いが湧き上がってきます。その事に、まず気づいて下さい。そして今ここに呼吸をしている自分がいる事に気づいて下さい。この事が、色んな因と縁があつてこの世界に生きている自分の存在に気づく事ができれば儲けものです。しばらくその状態を続けた後に、ホッとした気持ちになれば、それで良いと思えるようになれる筈です。マインドフルネスとは「気づき」と訳されます。自分の命の尊さとそれを戴いている有り難さを気づき感じ取る事ができれば、それだけで何かが変わると思います。今回の企画がその一助になれば有難いところです。音楽会は協力金をお願いしますが、この部分は無料です。宜しければ足をお運び下さい。

お寺でジャズ？

近頃、居酒屋だけでなく、ラーメン屋さんでもBGMにジャズが流されるようになりまし。ジャズは難しい音楽に思われていた時代もありましたが、本来は芸術ではなく皆が楽しめるものである事が浸透したようです。毎年、演奏してくれる鈴木良雄氏(b担当)は、世界のナベサダこと渡辺貞夫のグループでデビュー、本場アメリカで著名プレイヤーとの活動を経て、帰国彼の音楽は、日本人の琴線に触れる暖かい優しい演奏です。私が大学のジャズ研でベースを弾くようになったのも鈴木氏のアルバムがきっかけでした。その人の演奏を自分が住職を勤める寺で聴けるのも有難い事です。今回のメンバーも日本の有数の演奏家ばかり。技術はものすごいのに、決して押しつけがましくなくベテランの味で、



坊主は政治に関わらないと言う鉄則を言う気にならない程、娑婆(忍土)の政治の劣化には歯止めが掛からないようだ。国の舵取りをする人ほど利他(他者を利する事)を優先に考えるべきなのに、自己保身が最優先課題になっている様に見える。議員はバッジがなくなればただの人だ。そうなれば、利他も出さないと言う理屈が聞こえるが、特定の他者の利のみに走る事は利他とは言わぬ。声の大きな人の声しか聞こえないようなら、選良とは呼べぬ。「言ったもん勝ち、やったもん勝ち」が処世の常道として定着すれば、誰も精進しなくなる。近頃は「弱者」の鎧をつけて自分に都合の良い「特権」を得ようとする高等戦術まで見えてくる。「みんなの為に良かれ」と黙々と努力する人が報われてこそ、娑婆即涅槃の教えが生きてくる。今の世の本当の弱者は誰？

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて
一炷(約四十分) 坐禅をして、坐禅に関する著述の解説(約二十分) 会費・会則一切なし、初めてのの方はご連絡下さい